

注 意 報

8 病 第 1 0 3 7 号
平成 1 8 年 7 月 2 0 日

各農業改良普及センター所長 様
各農業協同組合長(営農担当者) 様
各関係機関長・団体長 様

京都府病害虫防除所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

発生予察注意報第 3 号

作物名 **水 稻**
病害虫名 **斑点米カメムシ類**
1 発生地域 **府内全域**
2 加害時期 **出穂後収穫期まで**
3 発生程度(平年比) **多い**
4 防除時期 **穂揃期及び傾穂期**

5 注意報発令の根拠

(1) 7月中旬に行った畦畔雑草すくい取り調査の結果、確認地点率・平均虫数は府域で67.7%・16.1頭であり、平年に比べて多い発生であった。主要な発生種は、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、トゲシラホシカメムシであった。特にアカスジカスミカメは府内全域で確認され、確認地点率・虫数ともに高い値を示した。

府内各地の畦畔雑草における発生状況は表1のとおりである。

(2) 水田内のすくい取り調査では、確認ほ率・平均虫数は府域で14.7%・0.3頭であり平年並の発生であったが、南丹地域では確認ほ率・平均虫数は30.0%・0.8頭であり、平年に比べて多い発生であった。

府内各地の本田における発生状況は表2のとおりである。

(3) アカスジカスミカメの予察灯への飛来数(4月から7月第2半旬までの合計値)は京丹后市弥栄町で76頭(平年値:60.3頭)、亀岡市で56頭(平年値:36.4頭)であり平年並からやや多かった。

表1 斑点米カメムシ類の調査結果(7月中旬 畦畔20回振りすくい取り) 単位:%、頭

年	府 域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫 数	確認 地点率	平均 虫 数	確認 地点率	平均 虫 数	確認 地点率	平均 虫 数	確認 地点率	平均 虫 数
18年	67.7	16.1	71.4	17.1	70.0	8.9	42.9	5.9	80.0	29.8
平年	43.1	3.0	50.2	6.7	47.9	2.8	50.6	2.1	27.3	1.1
17年	64.7	5.8	85.7	9.0	90.0	10.9	42.9	1.0	40.0	1.8
16年	38.2	2.5	28.6	0.9	30.0	1.7	57.1	4.0	40.0	3.4
15年	47.1	2.9	71.4	7.7	50.0	2.5	57.1	2.6	20.0	0.2

表2 斑点米カメムシ類の調査結果(7月中旬 本田20回振りすくい取り) 単位:%、頭

年	府 域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確 認 ほ 率	平 均 虫 数	確 認 ほ 率	平 均 虫 数	確 認 ほ 率	平 均 虫 数	確 認 ほ 率	平 均 虫 数	確 認 ほ 率	平 均 虫 数
18年	14.7	0.3	0.0	0.0	30.0	0.8	28.6	0.4	0.0	0.0
平年	15.6	0.2	15.7	0.3	15.4	0.2	24.8	0.4	10.2	0.2
17年	20.6	0.4	42.9	0.6	20.0	0.2	14.3	0.7	10.0	0.4
16年	11.8	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	1.3	10.0	0.2
15年	8.8	0.1	14.3	0.1	20.0	0.2	0.0	0.0	8.8	0.1

6 防除上の留意事項

(1) 耕種の防除

- ・水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには畦畔の草刈りが有効である。しかし、出穂期に近づきすぎてから行くと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。そのため、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる。
- ・水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

(2) 農薬による防除

- ・斑点米の発生を減らす観点からは、カメムシ類を対象とした薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。なお、散布に当たっては周辺作物に飛散しないよう十分注意する。

表3 カメムシ類の主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数
エルサン粉剤2DL	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
エルサン乳剤	1000倍 60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
スミチオン粉剤2DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂前は1回)
スミチオン乳剤	1000倍	収穫21日前まで	3回以内
バイジット粉剤2DL	3～4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内
バイジット乳剤	1000倍	収穫30日前まで	2回以内(本田期は1回)
トレボン粉剤DL	3～4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	2000倍	収穫21日前まで	3回以内
MR.ジョーカー粉剤DL	3～4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内
アドマイヤー粉剤DL	4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内
ベストガード粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	4回以内
ダントツ粉剤DL	3～4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内
スタークル/アルバリン粉剤DL	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
スタークル/アルバリン粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内

(平成18年7月19日現在)

農薬の選択に当たっては農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用する。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)を参照のこと。